



平成30年度第1回防衛施設学会見学会レポート ～ 八幡製鐵所・航空自衛隊築城基地見学会～

(一社)防衛施設学会

(一社)防衛施設学会は、平成30年8月30日(木)、新日鐵住金株式会社、航空自衛隊第8航空団の御協力を得て、平成30年度の第1回見学会として八幡製鐵所、築城基地を訪問した。

今回は首都圏から離れた九州地区での開催ではあったが、九州地区内はもとより関東各地から総勢50名の会員が参加し、午前中に新日鐵住金八幡製鐵所、午後に航空自衛隊築城基地内の工事現場等を実地に見学させていただいた。

■新日鐵住金・八幡製鐵所

新日鐵住金株式会社のホームページ (<http://www.nssmc.com/works/yawata/>) によると、八幡製鐵所は、明治34年(1901年)に官営製鐵所として操業を開始。その後、一貫して日本鉄鋼業界のリーダーとしての役割を果たし、自動車工場向け高級鋼板や自動車・産業機械向け高級特殊鋼の棒鋼・線材の供給基地として、また近年は近接するアジア市場への輸出拠点としての役割が強まっている。

八幡製鐵所戸畑地区に到着後、総合センターにおいて、同製鐵所の沿革、概要説明を受けた後、同社グループ企業の製品等について展示説明を受けた。

その後、第4高炉、圧延工場を見学した。

東京ドーム約150個分の広大な戸畑地区敷地内には、多くの鉄鋼製品の製造施設が所在するが、戸畑地区では八幡製鐵所のシンボリック存在ともいえる第4高炉と熱間圧延工場を見学した。

第4高炉は、鉄鉱石を熱処理して銑鉄を取り出すための炉で、高炉で作られた銑鉄をトーチカー(混銑車)と呼ばれる細長いタンク車両に流し込む工程を見学した。また、鉄の製造時に副産物として発生する鉄鋼スラグから作られる工業製品である鉄鋼スラグ製品の説明を受けた。

熱間圧延(熱延)工場では、見学通路から製鋼工場で作られたスラブを加熱炉で加熱し、ローラーで力を加えて所定の形状の製品に加工する作業を見学した。熱延工場は、加熱炉と複数台の圧延機等から構成される細長い工場で、工場内部は、加熱したスラブの圧延過程で使用する冷却水の水蒸気の熱気が立ち込める暑さであった。当日は外気温が30℃近い夏日であったが、圧延工場から退出した時の外気がクーラーの風とも思おうべく心地良く感じられた。



写真-3 熱間圧延工場内部
(八幡製鐵所ホームページから転載)



図 八幡製鐵所戸畑地区
(八幡製鐵所パンフレットから転載)



写真-1 八幡製鐵所の概要説明(総合センター)



写真-2 製品説明会場



写真-4 見学会参加者(総合センター)

■航空自衛隊築城基地

午後、航空自衛隊築城基地に移動し、仮設滑走路の工事状況等を見学した。

基地到着後、航空参考館（資料館）において当学会正会員でもある小暮幹太第8航空団副司令（当時）の歓迎挨拶を受けた後、広報担当官から第8航空団、築城基地の概況説明を受けた。

築城基地のホームページ

(<http://www.mod.go.jp/asdf/tsuiki/kichishoukai/index.html>)

によると、周防灘に面した九州の北東部、福岡県築上町に所在する築城基地は、昭和17年10月に築城海軍航空隊として開設され、終戦後昭和20年9月に築城海軍航空隊は廃止。昭和21年10月に米軍が進駐、昭和29年12月に航空自衛隊が移駐し、昭和32年9月に米軍から航空自衛隊へ基地が返還されて現在に至るとのことである。

築城基地には、第8航空団の他に第2高射群第7高射隊、西部航空施設隊第3作業隊、航空保安管制群築城管制隊、航空気象群築城気象隊、築城地方警務隊が所在し、隊員数は約1500人、基地面積は約271万㎡（約82万坪。7高隊等地域を含む。）。滑走路は、長さ約2400m×幅45mであり、ほぼ東西方向に設置されている。F-2戦闘機、T-4練習機、パトリオット地对空誘導弾、基地防空火器、軽装甲機動車などが配備されている。

基地概況説明の後、気象観測室、F-2戦闘機、仮設滑走路の工事現場の順で基地内を見学した。

管制塔管制室直下の気象観測室から基地施設全体を俯瞰し、長さ約2400mの滑走路を有する航空基地である築城基地の広さを実感するとともに、制動傘を使用して着陸する戦闘機の状態などを見学した。

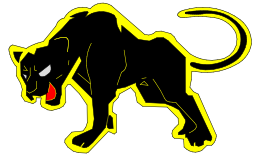
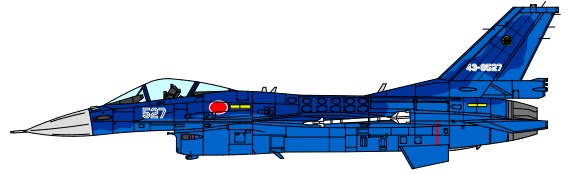


写真-5 築城基地概況説明



写真-6 築城基地上空を飛行する第6飛行隊・第8飛行隊のF-2戦闘機
(築城基地HP <http://www.mod.go.jp/asdf/tsuiki/index.html> から転載)

次に、格納庫において飛行隊の現役パイロットからF-2戦闘機の説明を受けた。F-2戦闘機は、F-1の後継としてロッキード・マーティン社のF-16戦闘機をベースに日米で共同開発された航空自衛隊の戦闘機で、F-16を大型化した機体に最大4発の空対艦ミサイルの搭載能力を持ち、戦闘機としては世界最高レベルの対艦攻撃能力と対空能力を兼備する。築城基地には第6飛行隊、第8飛行隊の2個飛行隊が配備されているとのことである。日頃身近に見ることのできない戦闘機であることから、参加者からパイロットに対し様々な質問が出され、質問が尽きない状況であった。

最後に、現在施工中の仮設滑走路工事現場を見学し、工事請負者の技術者から状況説明を受けた。

仮設滑走路工事は、1本しかない築城基地の運用を妨げないよう滑走路整備工事に先行して実施されているもので、現滑走路の前に使用されていた旧滑走路位置において作業が実施されていた。建設資材を積んだトラックや重機が動き回る工事現場は、現滑走路の近傍であるためFODに配慮し、かつ、航空機の運用を妨げないように基地管制塔と連絡を取りつつ、緊張感を持って実施されていた。また、100デシベルを超える航空機騒音の中で作業を実施する工事関係者の苦勞が察せられた。

基地内の各所を見学した後、第8航空団司令部庁舎前で記念撮影し、小暮副司令他基地隊員諸官の見送りを受けて築城基地を後にした。

八幡製鐵所、築城基地ともに、ある程度以上のまとまった人数の団体であれば事前予約のうえ施設見学が可能とのことであるが、個人で見学する機会は限られることから、今回の見学会で製鐵所内部や戦闘航空団の基地などの日頃なかなか目にするることのできない現場を見学できたことは、参加者にとって貴重な体験となったと思われる。

見学会当日は曇りがちの夏の日ではあったものの、関係する全ての皆様のご協力により事故等もなく無事、見学会を終了することができた。

最後に、今回の見学会の実施にあたり、事前調整・準備や現場の案内等に御協力いただいた新日鉄住金株式会社及び航空自衛隊築城基地の皆様並びに当学会の主催する見学会に参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げる次第である。



写真-7 F-2戦闘機
(航空自衛隊HP から転載)

<http://www.mod.go.jp/asdf/equipment/sentouki/F-2/index.html>



写真-8 仮設滑走路工事現場の見学



写真-9 見学会参加者（第8航空団庁舎前）



一般社団法人 防衛施設学会
Japan Society of the Defense Facility Engineers
URL; <http://www.jsdfe.org/>
E-Mail; gakkai@jsdfe.org

